

## サンペドロ型および普通型イチジクの果実品質, 収量の品種間差異

野方 仁・矢羽田二郎・粟村光男<sup>1)</sup>(福岡県農業総合試験場豊前分場・<sup>1)</sup>福岡県農業総合試験場)

Hitoshi NOGATA, Daijirou YAHATA and Mitsuo AWAMURA :

## Varietal Differences of Quality and Yield in San Pedro-Type and Common-Type Figs

イチジクは結果習性の違いによりサンペドロ型や普通型などに分かれて多くの品種があるが, 果実品質, 収量の品種間差異について詳細な検討は行われていない。そこで, 本報告ではサンペドロ型および普通型のイチジク 17 品種を供試して果実品質, 収量を比較し, 主要品種の‘榊井ドーフィン’と‘蓬萊柿’については栽植後からの収量の経年変化についても明らかにした。

## 1. 材料および方法

1) 果実品質, 収量の比較: 場内ほ場に栽植中のサンペドロ型 4 品種と普通型 13 品種を 1~4 樹供試し, サンペドロ型品種は夏果, 普通型品種は秋果について, 1994~1997年に収穫開始時期, 収量, 1果重, 果皮色, 着色割合, 糖度, 果肉密度を調査した。1果重は全収穫果の平均値とし, 着色割合と糖度は収穫日ごとに 1果を測定してその平均値を求めた。果皮色と果肉密度は種苗特性分類調査報告に基づいて調査を行った。

2) 収量の経年変化: 1989年に1年生苗で定植した‘榊井ドーフィン’と‘蓬萊柿’について, ‘榊井ドーフィン’は4樹, ‘蓬萊柿’は永久樹と間伐樹各4樹を供試し, 1991~1997年に収量, 1果重を調査した。

## 2. 結果および考察

1) 果実品質, 収量の比較: サンペドロ型品種では, 1果重は‘谷川’, ‘ビオレー・ドーフィン’が119g以上で著しく大きく, また‘ビオレー・ドーフィン’は糖度が高く, 果肉密度も密だった。収量は‘キング’が多かったが, ‘榊井ドーフィン’の約1/2で, その他の品種は著しく少なかった。普通型品種では, ‘姫蓬萊’, ‘ネグロ・ラーゴ’, ‘セレスト’, ‘イスキア・ホワイト’が‘榊井ドーフィン’および‘蓬萊柿’に比べて糖度が高く, 果肉密度が密で果実品質が優れた。普通型の各品

第1表 イチジクの果実品質および収量の品種間差異

| 型     | 品種名          | 収穫開始時期<br>(月旬) | 1果重<br>(g) | 果皮色 | 着色割合<br>(%) | 糖度<br>(Brix) | 果肉密度 | 収量<br>(kg/樹) |
|-------|--------------|----------------|------------|-----|-------------|--------------|------|--------------|
|       |              |                |            |     |             |              |      |              |
| サンペドロ | サンペドロ・ホワイト*  | 7上             | 75.2       | 淡緑  | 0           | 15.2         | 密    | 2.2          |
|       | 谷川☆          | 7上             | 119.9      | 黄緑  | 0           | 12.8         | 中    | 3.7          |
|       | キング☆         | 6下             | 52.9       | 淡緑  | 0           | 15.5         | 密    | 11.6         |
|       | ビオレー・ドーフィン*  | 7上             | 119.6      | 赤褐  | 57          | 16.6         | 密    | 1.1          |
|       | ネグロ・ラーゴ*     | 8中             | 34.7       | 紫黒  | 69          | 17.0         | 密    | 4.9          |
|       | セレスト*        | 8中             | 13.1       | 赤紫  | 64          | 17.3         | 密    | 4.9          |
| 普通    | ロイヤル・ペンヤード*  | 8下             | 43.0       | 橙黄褐 | 46          | 16.8         | 粗    | 16.7         |
|       | ブラウン・ターキー*   | 8下             | 38.2       | 橙褐  | 54          | 15.9         | 密    | 18.4         |
|       | 姫蓬萊*         | 8中             | 37.8       | 赤紫  | 72          | 18.0         | 密    | 19.4         |
|       | アーテナ*        | 8下             | 25.4       | 淡緑  | 0           | 16.6         | 中    | 3.2          |
|       | ゼノア・ホワイト*    | 8中             | 49.9       | 黄緑  | 0           | 15.9         | 密    | 7.8          |
|       | イスキア・ホワイト*   | 8中             | 16.9       | 黄緑  | 0           | 16.7         | 密    | 12.9         |
|       | ドウ・ロイ*       | 8下             | 49.7       | 橙黄褐 | 32          | 15.0         | 中    | 7.9          |
|       | イスキア・ブラック*   | 9上             | 27.8       | 紫黒  | 77          | 14.8         | 密    | 11.3         |
|       | アチド・アルベンツィユ* | 9上             | 42.7       | 赤褐  | 44          | 18.1         | 中    | 2.0          |
|       | 蓬萊柿*         | 8下             | 73.1       | 赤紫  | 55          | 16.3         | 中    | 114.4        |
|       | 榊井ドーフィン*     | 8中             | 85.1       | 赤褐  | 72          | 14.7         | 中    | 20.7         |

注) a) 栽植方法は‘蓬萊柿’は10.0×10.0mの2倍植えの開心自然形整枝, ‘榊井ドーフィン’は4.0×3.0mの一文字整枝, その他の品種はすべて4.0×4.0mの開心自然形整枝

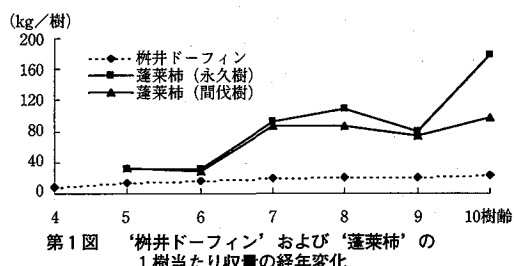
b) データは1994~1997年の平均で, サンペドロ型は夏果, 普通型は秋果

c) \*は1989年3月に, ☆は1990年3~4月に, ☆は1991年3月に1年生苗を定植

種の1果重は‘榊井ドーフィン’および‘蓬萊柿’に比べて小さく, 収量も少なかった(第1表)。

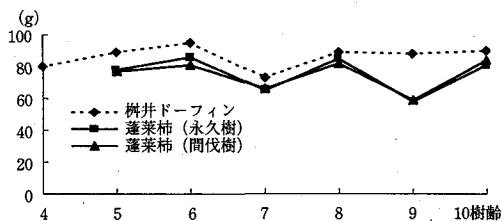
2) 収量の経年変化: 1樹当たりの収量は, ‘榊井ドーフィン’では樹齢に伴う変化が小さく, 6年生以降は20kg前後の範囲で軒増したのに対し, ‘蓬萊柿’では7年生以降に‘榊井ドーフィン’より著しく多くなり, また9年生までは永久樹と間伐樹で差はなかったが, 縮伐により10年生では永久樹が間伐樹の約2倍となった。10a当たりの収量は, 6年生までは‘榊井ドーフィン’の方が‘蓬萊柿’より多かったが, 7~9年生では差がなくなり, 10年生では‘蓬萊柿’が2.5tを超えて多くなった(第1図, 一部データ略)。1果重は‘榊井ドーフィン’の方が‘蓬萊柿’より概ね5~10g前後大きく, ‘蓬萊柿’は年次変動が大きかったが, 永久樹と間伐樹の間には差がなかった(第2図)。

以上より, サンペドロ型品種は1果重が大きく, 果実品質が優れるものもあるが収量性が劣り, また普通型の各品種は‘榊井ドーフィン’および‘蓬萊柿’に比べて1果重が小さく, 収量性が劣る。‘榊井ドーフィン’は栽植後の収量の増加が早く, 5~6年生ではほぼ成木収量に達するのに対して, ‘蓬萊柿’は6年生頃までの収量が少なく, その後は樹冠の拡大に伴って収量が増加し, その際, 1果重の年次変動は大きい, 永久樹と間伐樹では1果重に差がないことが明らかになった。



第1図 ‘榊井ドーフィン’および‘蓬萊柿’の1樹当たり収量の経年変化

注) 栽植方法は‘榊井ドーフィン’は4.0×3.0mの一文字整枝, ‘蓬萊柿’は10.0×10.0mの2倍植えの開心自然形整枝



第2図 ‘榊井ドーフィン’および‘蓬萊柿’の1果重の経年変化